



# エクテス りんごの棚プロジェクト

監修：四国学院大学社会福祉学部教授 野崎晃広



# 読書バリアフリー

---

読書バリアフリーとは、障害の有無にかかわらず、すべての人が読書を通じて文字・活字文化の恩恵を受けられる社会を目指す取り組みです。

2019年6月に施行された「読書バリアフリー法」（正式名称：視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律）に基づき、アクセシブルな書籍やサービスの普及が進められています。

この法律は、視覚障害や発達障害、肢体不自由などにより書籍の認識が困難な人々が、読書を楽しめる環境を整備することを目的としています。これにより、誰もが情報にアクセスし、教育の機会均等にも繋がると期待されています。





# りんごの棚って何？

「りんごの棚」は、特別な配慮が必要な子どもたちを対象に、利用しやすい形式の資料（アクセシブルな資料）を集めた本棚のことです。

すべての子どもたちに本を読む喜びを体験してもらう場所として、1993年にスウェーデンのヘルネーサンド市にある公共図書館で「りんごの図書館」として始まった図書館サービスです。その後、どこの図書館でも設置できるよう規模を小さくした「りんごの棚」に変更されました。

名前の由来は、ロンドンの障害児図書館で言語障害のある子どもたちを支援するために作られたりんごのおもちゃからきています。

現在では世界中の図書館に活動の輪が広がり、日本でも多くの図書館で「りんごの棚」が設置されるようになりました。



# りんごの棚のロゴマーク



「りんごの棚」のロゴマークは、2005年にスウェーデンの公共図書館で、アクセシビリティに関する取り組みの一環で作成されました。

現在は「りんごの棚」の普及活動のシンボルマークとして、既定の範囲内（商用使用を除く）であれば、どの図書館でも自由に活用することができます。



# バリアフリー資料とは

---

すべての人が、紙に印刷された本を読むことができるとは限りません。視覚や聴覚に障害のある人や、発達障害、ディスレクシアなどの読み書きに困難のある人もいます。

本を読むのに特別な配慮が必要な人たちが、利用しやすい形式の資料（アクセシブルな資料）のことを、「バリアフリー資料（図書）」といいます。

「りんごの棚」には、すべての人が自分に合った読み方を選択し、様々な「読み」を楽しめる資料を集めています。





# バリアフリー資料



エルエル

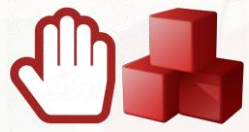
## LLブック

LLブックとは、スウェーデン語の「LättLäst」（やさしく読みやすい）を略した言葉で、知的障害や自閉症のある人、日本語学習者など、誰もが読書を楽しめるように工夫された「やさしく読みやすい本」のことです。文章だけでなく、写真、イラスト、ピクトグラムなどを用いてわかりやすく表現しています。



## 大活字本

大活字本とは、視覚が弱い方や高齢者など、通常の文字サイズでは読書が困難な方のために、行間を調整し文字を大きくして読みやすく工夫された本のことです。



## さわる絵本

さわる絵本は、視覚に障害のある方が触覚で楽しめるように、絵本の絵の部分に様々な素材を貼り付けたり、立体的に加工したりして作られた絵本のことです。実物の質感や触感に近いさまざまな素材を用いて作られており、指で触るだけで内容が伝わりやすいように工夫されています。

手で見る絵本、指で読む絵本とも呼ばれ、文章は点字と墨字の両方で表記されていることが多いです。



## 布の絵本

布絵本は、マジックテープやスナップ、ボタン、ファスナー、紐などを使い、絵の部分を着脱したり動かしたりできる仕掛けが施された本のことです。子どもたちは遊びを通して、「はずす」、「はめる」、「結ぶ」といった指先の機能訓練を行うことができます。

「見て、さわって、楽しめる」バリアフリー絵本であるため、すべての子どもたちに絵本の楽しさを届けることができます。



# 点字絵本

点字絵本とは、視覚に障害のある人もない人も、一緒に楽しめるように工夫された絵本です。

## ◇ 点字つきさわる絵本

出版社によって作られる絵本です。カラー印刷の上にシルク印刷を施し、絵の部分を盛り上げて触れるように工夫されています。文字は点字と通常の文字の両方で書かれており、見える人も見えない人も一緒に楽しめます。

## ◇ 点訳絵本

市販の絵本に、ボランティアが透明な塩ビシートを使って点字や絵の形を貼りつけたものです。絵の様子が分かりにくい場合は説明文が添えられます。これらは手作りで製作されており、視覚に障害のある人だけでなく、見える人も楽しめるように作られています。

 点字図書

点字図書とは、通常の活字図書を点字に翻訳（点訳）した図書のことで、点字図書または点訳図書と呼ばれています。点字図書は、紙に印刷したものと電子データに保存したものがあります。

 手話つき絵本

手話つき絵本とは、聴覚障害のある子どもに手話と単語の対応をわかりやすく伝えるために、手話のイラストと単語を組み合わせた図書のことです。

手話は言語であり、手話つき絵本は手話に親しみ、コミュニケーションの楽しさを知るきっかけとなります。

## オーディオブック

オーディオブックとは、専門のナレーターや声優が書籍を朗読したものを録音した音声コンテンツのことです。文字を目で読むのではなく、朗読を耳で聴くので、「聴く本」とも呼ばれています。

## マルチメディア<sup>デイジー</sup>DAISY

マルチメディアデイジーとは、視覚障害や発達障害などにより活字での読書が困難な方のために、文字、音声、画像を同時に再生できるデジタル録音図書です。

DAISY (Digital Accessible Information System) という国際標準規格に基づいており、読み上げ箇所がハイライト表示されるなど、読書を支援する様々な機能が備わっています。



# エクテス版りんごの棚

四国学院大学図書館エクテスの「りんごの棚」は、障害のある人だけでなく、様々な形の生きづらさを抱えた人たちの、力になれるような場所を目指しています。

1

行政サービスや施設、学校、ボランティア団体など、障害を持つ人やその家族、様々な生きづらさを抱えている人たちの手助けになるような情報を取り揃えています。

また、ボランティア活動に関心のある人や、福祉に関係した仕事をを目指す学生にも役立つ情報があります。

性的  
マイノリティ

不登校

ひきこもり

ヤングケアラー

依存症

うつ病

発達障害

自傷

吃音

トラウマ

子どもの  
貧困

日本語  
非母語話者

虐待



# エクテス りんごの棚プロジェクト

---

「エクテス・りんごの棚プロジェクト」とは、読書バリアフリーを軸に展開する展示やイベントを通して、障害の有無に関わらず、生きづらさを抱える人たちの“声”を聞き、すべての人に開かれたアクセシブルな図書館を目指す取り組みです。

障害や生きづらさを抱えた当事者と、支援する人たち、そして福祉を学ぶ学生が、同じ目線で様々な課題について語り合い、連携し、よりよい社会の構築に貢献できることを目指しています。

「りんごの棚」からはじまる取り組みに、多くの方が賛同してくださることを願っています。



# りんごの棚 × ノーマライゼーション

---



## ノーマライゼーションとは

障害のある人が、障害のない人と可能な限り同じ条件のもとに生活できる社会を目指す考え方です。社会的弱者に変化を求めるのではなく、社会のあり方そのものを変えることを目指します。

この概念は、デンマークのニルス・エリク・バンク-ミケルセンによって、世界で初めて提唱されました。

「りんごの棚」の理念は、まさにノーマライゼーションの理念と一致するものです。「読む」形を変えれば、誰もが読むことを楽しめます。

日本に初めてノーマライゼーションの理念を紹介したのは、社会福祉学者で、四国学院大学第11代学長の中園康夫です。今では、ノーマライゼーションは日本の福祉政策の根本理念として定着しています。

- 文部科学省 視覚障害者等の読書環境の整備（読書バリアフリー）について  
[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/ikusei/gakusyushien/1421441.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/gakusyushien/1421441.htm)

- 日本点字図書館  
<https://www.nittento.or.jp/>

- りんごプロジェクト「NPO法人ピープルデザイン研究所」  
[https://peraichi.com/landing\\_pages/view/ringoprojectbook/](https://peraichi.com/landing_pages/view/ringoprojectbook/)

- Apple Shelf Project（りんごの棚）  
<https://appleshelf.jp/>

